

【学習結果】

《国語》

話すこと・聞くことに関しては平均よりも高くなっています。しかし、短答式の問題や書く問題が苦手という結果が出ています。また、「敬語」の問題でも平均より低くなっています。つまり、話し合い活動を積極的に行うことができることがわかります。その中で自分の考えや思いを正確に伝えることや言葉遣いが課題となっています。

《数学》

全体的に平均よりも低い結果となっています。特に、記述式の正答率が低くなっています。また、基礎的な計算能力も苦手傾向にあります。「知識・技能」の力がなければ、「思考・判断・表現」ができないことがわかります。

《全体を通して》

大穴中の生徒が苦手なことは、自分の思いや考えを正確に伝えることです。特に、記述式の問題でつまづいている生徒が多くなっています。表現するためにも、まずは、基礎基本の力（国語…「漢字を正確に書く」「語彙の数を増やす」「読解能力」、数学…「四則計算」「分数の理解」等）をつけて、自分の思いや考えを言語化して伝えられるようになると良いことがわかりました。今年度、入試の問題傾向が変化し、「思考力、判断力、表現力」を問われる問題が増えました。日頃から、生活記録ノートや各授業でのふりかえりを大切にできれば、書くことにも慣れてくるのではないのでしょうか。

《生活アンケートと学習のつながり》

例年に比べて、平均点が上がりました。少しずつ大穴中学校全体としての成果が出ています。それは、授業に集中して取り組み、家庭学習を継続して取り組む生徒が増えているからだと考えられます。特に、テスト前の学習計画をしっかりと立て、苦手なことをしっかりふりかえりながら、努力を積み重ねができている生徒は、実力を伸ばすできています。

しかし、学力の二極化の傾向が見られます。アンケートの結果から生活習慣をつけられている生徒は、学力も高くなっていることがわかります。家庭での過ごし方を工夫できると、学習習慣もつきやすく、結果も伴ってくるということがわかりました。今一度、ご家庭での生活習慣や学習習慣を見直していただくと良いかと思います。

【来年度の学校での取り組み】

- ① 授業規律の徹底。⇒「授業の心得」という授業で守るべきルールを学校全体で共有する。
- ② 学習の「ねらい」を設定する。⇒学習の見通しを持てるようにする。
- ③ 授業の工夫をする。⇒授業の改善。導入から関心を持てるようにする。PCの活用。
- ④ 主体的・対話的で深い学びの実践。⇒話し合い等の充実を図る。（コロナ禍での工夫）
- ⑤ 指導と評価の一体化。⇒「学習のしおり」を活用し、評価への意識を高める。
- ⑥ ふりかえりの充実⇒授業の最後の5分間でふりかえりを行う。（記述練習）
- ⑦家庭学習の充実⇒ワークの進め方を工夫する。基礎基本の充実を図る。